

マスコミ・ジャーナリズムのあり方を考える

－議論はこれから－

開倫塾

塾長 林 明夫

- (1) 5年間にわたる社団法人経済同友会の「マスコミ・ジャーナリズムのあり方を考える懇談会」の活動が、2008年4月23日に終了した。
- (2) 新聞になり代わり、巨大メディアになりつつあるTVメディアが、日本でも2011年7月から地上波からデジタルに完全に移行することで、新しい時代が始まろうとしている。
- (3) このような激動の時代を前にして、マスコミ・ジャーナリズムのあり方を真正面から真剣に議論する場が経済界から消え去ることは、本当に「もったいない」と痛感する。
- (4) 但し、毎年10回程度、5年間で約50回の真剣な議論が経済界で行われたことは、高く評価されるべきと考える。議論の蓄積(アーカイブ)を、次の本格的な議論にどのように活かすかが大切だ。
- (5) まさに議論はこれからと考える。